

『JVA2023 年年間統計調査結果』について

当協会の業務部会マーケット調査委員会は、2023年1月～12月のビデオソフトの出荷についての統計調査を『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol. 96』にまとめました。

つきましては、ここに結果の抜粋となりますが2023年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本報告書は一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2023年（1月～12月）の実績について

はじめに

2023年は、ようやくコロナ禍がひと段落し、アフターコロナへの移行が見えてきた年となった。昨年に比べ消費者レベルのマインドは変化しつつあり、より経済を回していこうという考えにシフトしていることがうかがえる。特に2023年5月に新型コロナウイルスが5類に分類されたことにより、コロナ禍で抑制されていたライブ・イベントなどのリアルイベントが活況な一年となった。その一方で、円安による部材・原材料高騰により、一部ビデオソフトの値上げが起こっているということも押さえておきたい。

1. 2023年のビデオソフトの総売上は1,152億3,500万円で前年比100.4%とわずかに前年を上回る実績となった。JVAが集計する年間売上実績で前年を上回ったのは実に19年ぶりとなる。下半期だけでみると581億6,100万円で前年同期比96.7%と前年同期を下回っているが、上半期が570億7,400万円で同102.2%と前年同期を上回ったことで、年間でもわずかに上回る結果となった。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、DVDビデオが413億2,400万円で前年比94.7%と減少しているが、ブルーレイ（Ultra HDブルーレイを含む。以下同様）は739億1,100万円で前年比103.8%と前年を上回る結果となった。構成比ではDVDビデオの構成比が35.9%（2022年は38.0%）、ブルーレイの構成比が64.1%（2022年は62.0%）となり、ブルーレイの構成比が堅調に拡大してきている。

<添付資料 表1>

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別の構成で見ると、販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の割合は、91.7対0.3対7.1対0.9となり、販売用の割合が増加し（2022年は89.5%）市場の9割を超える構成比となった。

<添付資料 表4>

3. 販売用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額は 1,056 億 8,500 万円で、前年比 102.8%と前年を上回った。ブルーレイは 726 億 9,400 万円で前年比 104.1%、DVD ビデオは 329 億 9,100 万円で前年比 100.1%と共に前年を上回る結果となった。販売用全体に占めるブルーレイの売上金額の構成比は 68.8%となり、7 割近くまで構成比を拡大してきている。

<添付資料 表 5>

販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位（50.6%）の『音楽（邦楽）』は当年、『Snow Man』や『King & Prince』がそれぞれ2作品ずつリリースしたこともあり、前年比118.9%と売上を大きく伸ばした。また構成比3位（8.1%）の『日本のTVドラマ』も『silent』や『カサギ（2022年版）』などの作品が売上を伸ばしたこともあり、前年比117.8%と前年を大きく上回った。

一方、構成比2位（21.3%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は前年比95.5%、構成比4位（5.8%）の『洋画（TVドラマを除く）』は同68.0%、構成比5位『邦画（TVドラマを除く）』は同77.2%とそれぞれ前年を下回る結果となった。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『洋画（TVドラマを除く）』が 84.7%（前年 85.1%）、『日本のアニメーション（一般向け）』が 84.5%（同 83.4%）、『音楽（邦楽）』が 66.1%（同 64.2%）、『邦画（TVドラマを除く）』が 59.5%（同 58.4%）、『日本のTVドラマ』が 59.1%（同 56.6%）となっている。

<添付資料 表 7>

4. ブルーレイの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位（48.7%）の『音楽（邦楽）』は前年比 122.4%、構成比 4 位（6.9%）の『日本のTVドラマ』は同 122.9%とともに前年を大きく上回った。一方、構成比 2 位（26.1%）の『日本のアニメーション（一般向け）』は前年比 96.7%と前年を下回り、構成比 3 位（7.1%）の『洋画（TVドラマを除く）』は同 67.7%、構成比 5 位（3.6%）の『邦画（TVドラマを除く）』も同 78.7%とそれぞれ前年を大きく下回る結果となった。

<添付資料 表 7>

5. DVD ビデオの販売用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位（55.0%）の『音楽（邦楽）』が前年比 112.7%と売り上げを大きく伸ばし、ひとつのジャンルで全体の半数以上を占めるという結果となった。また構成比 2 位（10.6%）の『日本のTVドラマ』も同 111.0%と前年を上回った。一方、構成比 3 位（10.6%）の『日本のアニメーション（一般向け）』が前年比 89. %、構成比 4 位（5.3%）の『邦画（TVドラマを除く）』が同 75.0%、構成比 5 位（4.3%）の『芸能・趣味・教養』も同 89.4%とそれぞれ前年を大きく下回る結果となった。

<添付資料 表 7>

6. レンタル店用全体（DVD ビデオとブルーレイの合計）の売上金額は 82 億 1,400 万円で、前年比 75.1%と前年を大きく下回った。売上金額全体に占めるブルーレイの割合が 4.9%となり、前年の 7.7%から縮小した。全体の 95.1%を占める DVD ビデオの売上金額は 78 億 900 万円で前年比は 77.4%となった。またブルーレイのレンタル店用の売上金額は 4 億 500 万円で前年比 48.0%と前年から約半減という結果となった。

<添付資料 表 5>

7. レンタル店用全体の売上をジャンル別にみると、構成比1位(25.5%)の『アジアのTVドラマ』が前年比79.8%、構成比2位(23.9%)の『日本のアニメーション(一般向け)』が同96.1%、構成比3位(14.4%)の『邦画(TVドラマを除く)』が同61.5%、構成比5位(10.8%)の『洋画(TVドラマを除く)』が同54.5%と、それぞれ前年を下回る結果となった。一方、構成比4位(24.0%)の『日本のTVドラマ』が前年比125.6%と上位のジャンルのなかで唯一前年を上回った。

<添付資料 表8>

8. 売上金額を売上数量で割って単純に求めた1枚当たりの単価を見てみると、DVDビデオの販売用の平均単価が4,041円で前年比107.1%、ブルーレイの販売用も6,045円で同104.1%とそれぞれ前年から上昇した。

DVDビデオの『レンタル店用』の平均単価は1,460円となり前年比118.1%と大きく上昇した。『アジアのTVドラマ』『日本の子供向け(アニメーション)』の単価上昇が影響したとみられる。一方、ブルーレイの『レンタル店用』の平均単価は1,516円で前年比99.8%と前年からわずかに低下する結果となった。

<添付資料 表6>

以 上

追記

<本統計調査報告についての注意点>

- 本報告は、JVA 会員社が発売、販売する自社作品および他社作品の出荷段階の売上をまとめた統計である。
- 返品分は金額、数量とも調査時点において差し引いている。
- DVD とブルーレイのコンボ作品はブルーレイにカウントしている。
- 「日本の子供向け(アニメーション)」などにある“子供向け”とは、目安として9歳以下の子供を対象とした作品のこと。
- ブルーレイの売上にはUltra HD ブルーレイの売上を含む。
- 「特殊ルート」とは、雑誌やコミック、食玩などとして他商品に付帯されるものの売上のこと。